

3年目の“猪名川公園のヒメボタル幼虫調査・観察会”を実施

～ヒメボタルの幼虫を観察して、猪名川の環境を考えよう～

～猪名川河川事務所～

神崎川水質汚濁対策連絡協議会猪名川分科会(事務局:猪名川河川事務所)の主催で、『2019猪名川公園のヒメボタル幼虫調査・観察会』を、流域の市民団体、NPO団体及び一般募集した市民の皆さんの総勢41人で実施しました。

皆さんの協力により、この調査・観察会も3年目となりました。今回は、洪水を防ぐために河川内の樹木を伐採した後の状態での開催でした。そのため、伐採時に配慮したヒメボタルが、実際にちゃんと生息しているかどうか、確認する調査にもなりました。地元・尼崎市からの参加が多かったですが、近隣の伊丹市や池田市、神戸市からの参加もありました。

開催概要

- 日時：【設置】令和元年12月7日(土) 【回収】令和元年12月14日(土)
- 場所：猪名川公園付近の猪名川右岸河川敷(猪名川3、4k)
- 参加人数：【設置】28人【回収】41人
- 内容：トラップの設置・回収、幼虫観察、河川内伐採木を使った工作、ヒメボタルの話
- 主催：神崎川水質汚濁対策連絡協議会 猪名川分科会(事務局:猪名川河川事務所)
- 協力：池田・人と自然の会、猪名川ヒメボタルの会、猪名川流域ひめぼたるネットワーク、(順序不同) 自然と文化の森協会、流域ネット猪名川、大阪府立刀根山高等学校生物エコ部

イベントの様子

【トラップ設置】ヒメボタルの幼虫を捕まえるためのトラップを作成し、仕掛けました。トラップは直径3センチほどのフィルムケース型で、中には幼虫を誘き寄せるための餌を入れ、地面に埋め込んで設置しました。トラップは全部で150個設置しました。



【トラップ回収】一週間後、仕掛けたトラップを回収し、中にヒメボタルの幼虫が入っていないか調べました。その結果、捕獲できたヒメボタル幼虫は3匹でした。これは、昨年(177匹)に比べるとかなり少なく、一昨年(7匹)と同程度です。今回は樹木伐採後であったことに加え、トラップ設置期間中、幼虫が活発に動き回ってトラップへ入りやすくなるような、雨の日や気温の高い日がなかったことも影響しているとみられます(逆に、昨年はトラップへ入りやすい天候でした)。そのような中、少数であってもヒメボタル幼虫を確認できたことには大きな意味があり、今後、成虫の発生状況等を継続して調べていくことが大事だという認識を、参加者の皆さんと共有しました。幼虫観察後は、猪名川のヒメボタルの生息状況等について学び、その間、子供達は流域ネット猪名川さんの指導のもと、河川内伐採木やジュズダマを使った工作に挑戦しました。



参加者の声

「みんなと一緒に観察ができた」「地元の自然と安全の現状と今後を考えるきっかけになった」「猪名川のホタルが他の地域と違うことがわかって、もっと興味がわいた」「安全で楽しめた」「ホタルの幼虫を見ることができてよかった」「伐採では、もう少し草木を残してほしい」

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 猪名川河川事務所 工務課
〒563-0027 大阪府池田市上池田2-2-39 TEL 072-751-1111 (代)

